

# 建設情報 *Iwate*

八幡平市

## 遠忠が建設工事を落札 大更駅前顔づくり施設

八幡平市は、JR大更駅西側に(仮称)大更駅前顔づくり施設を建設する。このほど、「(仮称)大更駅前顔づくり施設建設工事」を入札した結果、同工事は遠忠が17億9400万円で落札した。施設内には、天候に左右されずに遊べる吹き抜けの屋根付き公園や図書エリアなどを整備する計画。市では、25年秋の完成、26年4月の供用開始を目指している。(関連7面)

施設は、同市大更第25地割地内に建設する。敷地面積は1678平方メートル。施設規模は鉄筋コンクリート造3階建て、延べ床面積3296.04平方メートルとなっている。

施設のメインターゲットは「子育て世代を中心とした次世代を担う男女、ファミリー」。施設整備の考え方について▽市民のための場

所づくり一日常的に訪れる場所、心地よい居場所▽顔となる施設一市民が愛着を持てる場所、来訪者を受け入れる玄関口などとしている。

1階には、エントランス・共用ホールとして観光案内、物販の機能やイベントコーナー、まちかどスペース、待合スペースなどを配置。移住定住センターも設ける。

2階の子育て支援エリアでは、天候に左右されずに遊べる吹き抜けの屋根付き公園を整備。同エリアには一時預かり保育や未就学児コーナー、交流スペース、



(仮称)大更駅前顔づくり施設の建設予定地周辺

ニュースのお知らせ  
〒020-0015 盛岡市本町通3-9-33  
本社編集部へ  
TEL (019) 623-8201  
FAX (019) 623-8204

乳児コーナー、絵本コーナー、相談室、おむつコーナー、授乳室なども設置する。

3階の図書エリアには、閲覧スペースや地域資料スペース、レファレンスコーナー、グループ学習スペース、読み聞かせコーナーなどを整備。若手山V i e wテラスも設置するとしている。

3月22日に建設工事の入札が行われ、遠忠が落札した。工期は25年11月6日までとなっている。施設設計は、アール・アイ・エーが担当した。

地整備事業に1562万1000円などを予算化した。

教育費では、中学校エアコン設置事業に1億854万円を計上。消防費では、同村中央防災センター改修整備事業に1380万円、防火水

槽等整備事業に193万8000円などを計上している。

簡易水道事業会計の資本的支出においては、配水および給水施設整備事業に740万1000円を盛り込んだ。

▽国・396号①遠野市内楽木峠②2017～2024年度③道路改築L＝973m④1,100,000⑤773,492⑥70.3%⑦A⑧1.8(3.0)⑨事業継続⑩381,000

〈地域連携道路整備事業(地域密着型)〉

▽主・二戸五日市線①二戸市柿ノ木平②2021～2030年度③道路改築L＝1880m④2,000,000⑤117,096⑥5.9%⑦A⑧1.1(2.0)⑨事業継続⑩27,060

▽主・大船渡綾里三陸線①大船渡市中曾根②2020～2028年度③道路改築L＝1400m④700,000⑤73.084⑥10.4%⑦A⑧5.0(8.2)⑨事業継続⑩30,000

▽一・二戸軽米線①軽米町新町②2020～2027年度③道路改築(突角尖除、待避所設置)L＝1300m④1,300,000⑤424,518⑥32.7%⑦A⑧1.7(3.1)⑨事業継続⑩197,500

## 2024年度当初予算への反映状況 ①

県の23年度公共事業継続評価の24年度当初予算への反映状況は次の通り。実施状況は次の通り。路線名等に続き①箇所名②事業期間③主な事業内容④総事業費(千円)⑤23年度までの事業費⑥24年度まで進捗率⑦総合評価⑧B/C⑨政策への反映状況⑩24年度予算額一の順。金額の単位は千円。

県庁整備部

〈地域連携道路整備事業(ネットワーク形成型)〉

▽国・340号①岩泉町浅内②2022～2028年度③道路改築L＝1400m④1,000,000⑤55,000⑥5.5%⑦A⑧1.6(2.6)⑨事業継続⑩145,000

▽国・281号①久慈市案内～戸呂町口②2020～2027年度③道路改

築L＝1000m④3,416,000⑤141,330⑥4.1%⑦A⑧1.6(3.6)(補助事業のため、国の指針等により算出)⑨事業継続⑩98,000

▽国・282号①八幡平市佐比内②2012～2026年度③道路改築L＝760m④2,600,000⑤860,261⑥33.1%⑦A⑧0.7(1.0)⑨事業継続⑩101,009,200

▽国・340号①宮古市和井内～押角②2020～2026年度③道路改築L＝1700m④1,800,000⑤557,555⑥31.0%⑦A⑧0.6(1.0)⑨事業継続⑩273,509

▽国・395号①久慈市、洋野町阿子木②2021～2028年度③道路改築L＝2290m④1,100,000⑤176,594⑥16.1%⑦A⑧3.0(5.3)⑨事業継続⑩240,500

出版物のお問い合わせは  
本社営業局へ  
TEL(019)623-8201  
FAX(019)623-8204

## 中学校エアコン設置に1億円 田畑畑村 沼袋三沢線など整備推進

田畑畑村の24年度一般会計当初予算の総額は、35億5019万2000円で、前年度当初比(以下同)1億8091万8000円の増、率にして5.4%増となった。普通建設事業費は5億1146万8000円で、30.0%の伸びとなった。主な予算としては、中学校エアコン設置事業に1億854万円、社会資本整備総合交付金事業(村道沼袋三沢線)に8411万9000円などを計上した。

一般会計の歳入のうち、自主財源は5億9501万3000円(構成比16.7%)、依存財源は29億5517万9000円(同83.3%)。自主財源の構成比は、前年度当初と比べて0.5%上昇した。

自主財源の柱となる村税は、2億2302万7000円で2.5%減。主な依存財源の地方交付税は19億5943万8000円で0.8%増となった。このほかの依存財源として、国庫支出金は3億8049万円で9.8%増、県支出金は1億5152万3000円で0.2%減、村債は3億2620万7000円で33.6%増となっている。

目的別歳出を見ると、土木費は3億8375万2000円で0.3%増、農

林水産業費は3億6203万7000円で7.9%増、教育費は3億5236万2000円で51.2%増など。

性質別歳出を見ると、普通建設事業費は5億1146万8000円で30.0%増。うち補助事業費は4億4692万円、単独事業費は6454万8000円

となっている。災害復旧事業費は1000円で、前年度当初と同額。

土木費関連では、社会資本整備総合交付金事業(村道沼袋三沢線)に8411万9000円を計上したほか、同(三陸沿岸道路追加I C整備)に8000万3000円、同(災害防除事業)に4800万2000円、同(道路舗装補修)に3300万2000円などを盛り込んだ。

農林水産業費においては、平井賀漁港施設機能強化事業に5200万1000円、草地畜産基盤整備事業に2641万1000円、下閉伊北区域農用

2024年度 田畑畑村一般会計当初予算

【歳入】		(単位:千円、%)	
科 目	予算額	伸び率	
村 方 譲 与 税	223,027	△ 2.5	
地 方 譲 与 税	57,620	2.5	
利 子 割 交 付 金	100	△ 50.0	
配 当 割 交 付 金	200	0.0	
株 式 等 譲 渡 所 得 割 交 付 金	400	0.0	
法 人 事 業 税 交 付 金	2,000	0.0	
地 方 消 費 税 交 付 金	75,000	0.0	
環 境 性 能 割 交 付 金	2,000	0.0	
地 方 特 例 交 付 金	202	0.5	
地 方 交 付 税	1,959,436	0.8	
交 通 安 全 対 策 特 別 交 付 金	1	0.0	
分 担 金 及 び 負 担 金	548	△ 4.0	
使 用 料 及 び 手 数 料	44,504	△ 1.5	
国 庫 支 出 金	380,490	9.8	
県 支 出 金	151,523	△ 0.2	
財 産 取 入	15,075	△ 2.1	
寄 付 金	8,007	59.9	
繰 上 入 金	211,677	29.2	
繰 越 金	10,000	0.0	
諸 取 入	326,175	5.4	
諸 取 入	82,207	33.6	
歳 入 合 計	3,550,192	5.4	

【歳出】		(単位:千円、%)	
科 目	予算額	伸び率	
議 会 費	48,935	0.0	
議 会 総 務 費	575,530	△ 8.7	
民 生 費	604,274	1.1	
衛 生 費	293,347	12.5	
労 働 費	45	0.0	
農 業 費	362,037	7.9	
商 工 費	115,958	△ 25.4	
土 木 費	383,752	0.3	
消 防 費	241,017	20.5	
教 育 費	352,362	51.2	
災 害 復 旧 費	1	0.0	
公 債 費	569,933	9.2	
諸 支 出 金	1	0.0	
予 備 費	3,000	0.0	
歳 出 合 計	3,550,192	5.4	

【性質別歳出】		(単位:千円、%)	
科 目	予算額	伸び率	
普 通 建 設 事 業 費	511,468	30.0	
補 助 事 業 費	446,920	52.0	
単 独 事 業 費	64,548	△ 35.0	
災 害 復 旧 費	1	0.0	

## いわて防災学教室 災害から学び、災害に備える



### 令和6年能登半島地震から学ぶ 避難所となる施設の維持・管理

岩手大学地域防災研究センター教授 福留 邦洋

今年1月1日に発生した令和6年能登半島地震では、地震動による大規模な土砂災害、海岸隆起、広域に及んだ液状化現象など地形や地盤変動により道路や上下水道などインフラに甚大な被害が発生しました。多数の孤立集落の発生、能登から加賀方面への二次避難など被災者の避難生活にも影響が及んだことは報道の通りです。今回の地震による周期(揺れのリズム)は、建物破壊しやすい固有周期に近かったため、耐震補強の不備、維持・管理が不十分な老朽化した木造建築物の多くが倒壊する阪神・淡路大震災(1995年)や熊本地震(2016年)のような被害となりました。揺れだけでなく液状化現象が起きたことも建物倒壊に大きく影響しています。

能登半島地震の被災地へ行ってみると、大規模な建物倒壊、損壊は免れたものの使用できなくなった体育館や公民館などいわゆる指定避難所(行政が事前に地域防災計画、ハザードマップなどで定めておく避難所)が散見されました。天井パネル・ボードの落下や内壁の亀裂、剥離などによるものですが、こうした空間は、避難者の収容が困難になり、支援物資の保管場所などとなっていました。また、応援職員の宿泊場所でも体育館など建物内にテントが張られている事例もありました。建物自体の躯体(構造体、骨格)を支える部材ではなく、内装や外装設備などに係る非構造部材の弱体化、劣化、損傷に要因があるのです。

ところで、研究室では災害発生時に避難所として

開設、運営が可能であるか建築面から推察する学生が在籍します。学校や公民館など比較規模の大きな公共施設は建築基準法に基づく定期報告(定期調査)が義務付けられています。この定期報告の内容を秋田県南部の避難所(指定避難所、福祉避難所)に重ねたところ、104カ所(棟)で約700件の落下に関する不備(問題)のあることが分かりました。外壁の外装仕上げ材、窓サッシ、屋根など屋上周りへの指摘が目立ちます。接合部の耐力不足等によるものですが、建物の劣化(老朽化)維持・管理の問題がうかがわれます。落下の可能性以外では、防火シャッターや排煙設備の不具合による避難の支障、雨漏りの可能性など防水性の低下に関する指摘が多くなっています。これらの問題が大規模災害時に露呈した場合、多くの避難所は機能しないことが懸念されます。

調査は秋田県におけるものですが、岩手県も同様の可能性があります。大規模災害発生時に被災者が集まる避難所が使用できなくなることは災害対応に重大な影響が出ることとなります。厳しい財政状況とはいえ、避難所になる公共施設等建物の維持・管理は喫緊の課題であり、向き合う必要があるのです。

※いわて防災学教室のバックナンバーは、岩手大学地域防災研究センターのホームページ「公開情報」で閲覧できます。

実証 スマートコンストラクション。

3Dデータで建設機械と現場と人をつないだ。経験の浅いオペレータが、整地に挑んだ。現場の仕事は、どこまで変わるのか。

この試行では、ある建設現場で行われた、従来より30%程度の省人化を実現し、コスト削減や安全をイメージした現場の整備や整地作業に、スマートコンストラクションを導入しました。従来は、2台のICT建設機械をそれぞれ「スマートコンストラクション」というICTソリューションで連携させ、ICTソリューションが土を掘り出した後、指示が自動的にオペレーターに伝わり、黄色い車体や前後の作業灯が自動的に点灯される仕組みです。オペレーターは、事前に設定された作業計画に従って作業を進め、作業完了後は自動的に作業灯がオフになり、作業機は自動的に停止します。また、作業機は、作業中に発生する異常や故障をリアルタイムで検知し、作業機が停止するまで作業を中断させます。

これまでない現場も、これからは現場も、SMART CONSTRUCTION

「スマートコンストラクション」を御覧ください。  
http://smartconstruction.komatsu.co.jp/  
スマートコンストラクション

KOMATSU D37PXI-23 KOMATSU PCI28USJ-10